

うさぎとかめ通信

上越市立高田幼稚園

(週刊：園長室だより) 106周年

令和4年5月19日

第148号

「思い→体験→表現」は、幼児・児童・生徒に一貫する、遊び・学びの基本です。

【速報：5/18 本園の職員が県立教育センター主催の資質向上研修会で実践発表しました。】

子どもの姿から

【荷車の中に宝物を乗せて…】→

良い天気が続くと、園庭での遊びも充実します。もも組の園児が、二輪の荷車に自分の宝物(園庭遊び・作業に使う物)を乗せて、あちこちを歩いています。遊びと作業がいっしょになって、やる気満々です。「今日は、何して遊ぼうかな」園庭は広いから好きなところで遊んで、宝物をどんどん増やしてください。



12日(木)に、野菜苗を大町の市で買いました。まっ組の皆さんがいろいろな野菜苗を買ってきました。園に帰ると、うめ組やもも組の皆さんの声援のもと、苗を畑に植えました。例えば、ミニトマト、中玉トマト、ピーマン、トウモロコシなどです。13日にはサツマイモも植えました。初夏にはたくさん収穫できますね。

園庭・園舎から

【うめ組のピタゴラ装置は進化中】→

10日(火)に、TKレンジャーの皆様から花壇の土づくりをしていただきました。今年も本園の活動にご支援いただき感謝しています。17日(火)には、花苗(マリーゴールド、百日草)も植えていただきました。急なお願いが多いですので、可能な範囲でご支援いただければ幸いです。(TKレンジャーは高田幼稚園の応援チーム)



13日(金)に、保護者の皆様から園庭の草取りをしていただきました。今年も保護者の皆様からていねいに園庭の草取りをしていただきました。降雨の後の曇りという草取り日和で始まりましたが、途中から直射日光。園児もたくさん協力して実施できました。またいろいろな活動に子どもたちは取り組むことができます。ありがとうございました。

キーワード

【もも組の幻想的な海と魚】→

○幼児一人一人に応じた指導

一人一人に応じることは、一人一人が過ごしてきた生活を受容し、それに応じるということなのである。それはまず、幼児の思い、気持ちを受け止め、幼児が周囲の環境をどう受け止めているのかを理解すること、すなわち、幼児の内面を理解しようとするところから始まるのである。そして、その幼児が真に求めていることに即して必要な経験を得られるように援助していくのである。このことは、幼児一人一人をかけがえのない存在として見て、それぞれ独自の生き方(行動の仕方、表現の仕方など)をしていると考え、その独自性を大切にすることなのである。(中略)幼児一人一人に応じた指導をするには、教師が幼児の行動に温かい関心を寄せる、心の動きに応答する、共に考えるなどの基本的な姿勢で保育に臨むことが重要である。



(引用：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館・平成30年)